

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 34 号

発行日
2024.8. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○終戦記念日に想っつ！「新しい戦前」とも言われるが…

昨日（15日）は、79回目の終戦記念日であった！終戦7年後に生まれた私は、まったくその戦争とは無縁の世代であるが、この時期になると、関連のイベントやテレビ番組等で、その悲惨さが繰り返し呼び覚まされるので、否が応でもそのことに対する感慨や複雑な想いが募る！とは言え、日常の自分の言動（生活）は、まったくそれとはかけ離れたものである。ある意味それは、半ば取ってつけたような感ではある！戦争反対！平和の有難さ！そんなことさえ、安っぽいヒューマニズムの受け売りのように思えるのである！

だから、これまでは、ほとんど、それに関わる想いは書かなかった！否、書いてはいけない（書か資格がない？）と思ってきたのである！だが、そんな中、今回偶々観たNHKの番組に、何故か心を奪われた！『新・ドキュメント太平洋戦争1944 絶望の空の下で』というものであったが、『太平洋戦争の3年8か月を、当時の日記や手記から追体験するシリーズ。第4回は市民の犠牲が急増した1944年。1万の住民が犠牲となったサイパン島の戦いを、14歳の少女の手記からたどる。この年本土空襲が本格化、戦火が市民に及ぶ。追い詰められた日本は、人間を兵器にする「特攻」に踏み出す。その犠牲となった若者たちは、みずみずしい感性で、思いを書き残していた。市民の生活はいかに戦争に侵食されていったのか。そんな解説もあった！』とにか、当事者達（人間魚雷「回天」の乗組員を含めた）の「生のあり様」を直に知った！悲惨としか言いようがないが、「新しい戦前」というような言われ方をしてる現今である！果たしてどうなっていくのか？根っからの悪人はいないはずなのだが、何故か？そうやっていく部分もある…！

○やはり、高校野球は（否、も？）素晴らしい！

過日オリンピックも終わり、スポーツ関係のテレビ番組は、ほとんど見なくなつた私であるが、今朝（21日）、遅い朝食（いつも通りだが！）を取りながら、少しは気になつていたら？高校野球（準決勝第一試合の最後の迎）を見てしまつた！どちらも素晴らしいチーム（関東第一高校と神村学園）で、一点を争う好ゲームであったが、結果は、2対1で関東第一高校の勝利となつた！しかも劇的な幕切れであつた（ヒットで帰ってきた選手が、本塁上で、僅かな差でタッチアウトゲームセット）！

先にも、元高校球児である私は、最早野球のことは、ほとんど興味はないと豪語？していたが（薄情者？）、やはり心の奥底には、そうではないものが残っているのであるろう？それは、おそらく自らの当時の姿（地方大会の2回戦で惨めな敗戦！）が重なっているからであらうが、勝利するチームの選手達のひたむきさ（技能も！）に、どこかで圧倒されていた（る？）自分を感じるからであらう（だから、思い出したくもないのである？）…！

ちなみに、神村学園の選手達は、みな坊主頭（二厘カット？）で、最近の光景からすると、逆に異様な感じもしたが、彼らの心意気を表すものとして（昔は、それが当たり前であつた！）、前向きに評価しておきたい（ただし、これについては、おそらく異論も多いであらうが？）！
追伸 本日（23日）、その決勝戦（京都国際高校対関東第一高校）を見た！とてもいい試合であつた（これもまた、球史に残る名勝負となる？）！そして、その球児達は、何故か、まばゆいばかりの若者達であつた！

○世は代表選で喧しい！だが、「新しい戦前」はどうなる？

国内（否、世界中？）の耳目を集めていた？オリンピックも終わり、今や、米大統領選の状況報告を筆頭に、自民党総裁選、立憲民主党（公明党も！）代表選の報道が喧しい！現在、私が住んでいる宜野湾市の市長選挙も行われる（現職だった市長が旅先で逝去！）とにか、トップの仕事は大変である！なのに、その地位に就きたい人がいる？周囲に担がれて立候補する人もいるようであるが、甘い覚悟で出来るものではない（出世欲、権謀術数が好きな人はともかく？）！余談であるが、某県知事（S氏）のスキャンダル（醜聞？）も、本当だとしたら、これほど酷いものはない？トップに立つ人間の品性の問題ではあるが、それを許す？（選挙で選ぶ）側の問題でもある…！

ちなみに、「〇〇維新の会」とか、「〇〇新選組」とか、かつては「新党魁^{まがけ}」とか、まさに時代を乗り越えよう（突破しよう）というようなスローガン（政治信条？）で、それなりのインパクトを与えようとしている（した）人達がいる（た）が、やはりその壁は厚く？、国全体を、鋭意動かしていくような力とはなっていない！あるいは、選挙自体の人氣者というような形で、名乗りを上げる人もいる（いた）が、結局は、彼らも、選挙ドラマ（否、政治ショー？）の盛り上げ役にしかなくてはいない（本人が、それでよいと思っているかどうかは分からないが？）…！

先にも書いたが、我が国（否、全世界？）は、まさに「新しい戦前」と言えるのかもしれない！しかし、それを、言うだけだったら、何も始まらない！誰が、どんなことをしようとも、いずれば、かの悲惨な戦争へと流れ込んでいくともいえるのか（もちろん、その可能性があるとはいえるが？）？要は、極端に言えば、この国の形／将来を、どのようにしていくのか（してあげようのか）のグランドヴィジョンが必要なのである！裏金問題とか、それを追及するとか、そういうステージの問題ではないのである（マスキミの餌食となるだけ？）…！

「世の中を良くしたい」ということは、実はそういうことなのだが、そのヴィジョンが見えない（言うのは簡単だが？）…！見ようとしても、いつの間にか、誰かに潰される…！（井上）

○「独り善がり」か？それとも「内なる納得」か？

本日(22日)、最近、午後の恒例(高齢?)現象となつていたうたた寝をしながら、半分?ユーチューブを見て(聞いて?)いたのであるが、偶然面白い番組に遭遇した!それは、表面の記事とも関わるが、ある偉人の話である(期間限定特別公開!BS11「偉人・素顔の履歴書」渋沢栄一編)『日本近代資本主義の父・渋沢栄一編』(配信期間:2024年7月7日~8月31日)一そして、そこには、次のような解説文があった!「今回は、現代にも続く経済と産業の礎を築いた渋沢栄一。農民から武士、役人から実業家へと身を展示(転じ?)、いかにして日本近代資本主義の父となったのか?」

番組では、彼の人となりや業績を、一通り紹介していたが、私は、かのNHKの大河ドラマ「晴天を衝け」2021年)を見ていたので、ほとんどのことは分かっていた(覚えていた!)!そういう意味では、あまり新鮮味は感じられなかった?ただ、他者の評価や、そのことの意味を、改めて知り、別な感動?を得ることが出来た!それにしても、途轍もない功績、否、素敵な人生を送ったものである!幕末、維新の人物で、こうした異彩を放った人物は、ほとんど知られていなかったということでもあるが、一人の人物の人間臭さを、こんな形で感じ入ることが出来るなんて:~

ちなみに、渋沢を、「独り善がりの人」と、解説者のK氏(歴史家・作家)は断じていたが、ひよつとしたら、この表現(評価)は、かなりの誤解を生むかもしれない!!私としては、「自らの言動の、内なる納得者」というように捉えれば、これもまた、言い得て妙だと言えなくもないなと思ったりもした!とんだ昼寝?の贈り物であった!追伸 私、まだ彼の新札にお目にかかっていない!カネの流通にまったく縁のない存在になっているということである(笑)!!これもまた、「内なる納得」と言える!!だが、それは、余りにも違い過ぎる(こちらは哀笑)!!

○これは、単なる国際化ではない?「国」の変化である!!

今回の、甲子園夏の大会の優勝校、京都国際高校の校歌が、何度となく流れた!やはり、奇異に感じたことは、その歌詞がハンゲルであったことである(ただし、日本語訳も併せてあった!)!選手達は、見た目も、名前も、まさに日本人であったが、母国?朝鮮(韓国)の人間であること?インディテイをどう思っているのか?薄っぺらな、民族、歴史認識問題論議を、ここで行うつもりはないが(そもそもしたくない!否、出来ない!)、目の前の光景はそれらを遥かに超えた「新たな現実」(未来?)を感じさせるものでもあった(詳しい実情は分からないが!)!!

しかも、先のオリンピックの出場選手の顔ぶれ(文字通りの意味)を見ると、最早、人種とか、肌の色の違いなどは、遥かに国境?を超えている!「国際化」とか、「グローバルスタンダード」とか、「多様性」とか、よく言われるが、それは、人類が新たな段階(融合国家?)への道を、確実に歩み始めている証拠でもある!!改めて、「国(国家)とは何か?」を考えなければならぬ!!

〈短歌に託して書けることの有難さ〉
・手記・手紙は残酷? 書き手はその時を
精一杯生きていただけに!

・まばゆいばかりの若者達!

少し休んでくれ 今はそれで十分だ!

・そんなにリーダーになりたいのか?

苦悩するぞ! それでもいいのか?

・「独り善がり」?「内なる納得」?

どちらでもよい? 何を為したかである!

・「国際化」を通り越した 国自体の変化!!

世界は既に そうなっている!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ④

○改めて、古代九州の全体像を探るーその5ー

となると、当地(高良山周辺)においては、まずは、景行天皇の皇子国乳別皇子を始祖とする「水沼君」がその地を治め(そこに先住していた?肥前水上/背振山南麓の桜桃沈輪 熊襲?を討滅した?)、その後、そこに神功皇后や武内宿禰の勢力が流入し、高良山を拠点にした、いわゆる「九州王朝」(の祖型?)が出現した!!そして、それが、その後、いわゆる「倭の五王」時代を作っていくということである!!要は、その地は、少なくとも三つの勢力の攻防(融合?)の地でもあったということである!

しかるに、ここが重要であるが、それらの勢力の攻防(融合?)の結果、近畿に移動する勢力(崇神/饒速日勢力)とそこに居続けた勢力(開化天皇勢力)最終的には大宰府方面に移動した?が、その後の「二つの倭国」(時期は三つか?)を形成し、九州(筑紫)倭国を母体にしたがらも、広範な領域国家を実現させていったということである(なお、その祖型を変えたのが、かの6世紀初頭の「磐井の乱」であった?)!!しかも、冷静に捉えれば、それらは、まさに「空白の4世紀」(頃の話であり、ある意味では、そこでの推移(全体像)が、後世の我々にとつての「空白(の世紀)」となっているのである(もちろん表面的には、中国史書に載っていないということであるが!))

ということ、ここでは、改めて、その中心人物として描かれている、かの「武内宿禰」の謎を追究していく必要があるわけであるが、その一番の謎(異常なまでの長寿はともかく)は、彼が、蘇我氏、葛城氏、紀氏等、いわゆる「葛城諸族の祖」とされていることであり、そしてまた、ある時期の政権中枢であった高良大社周辺において、北部九州勢力と中南部九州勢力(龍襲)の双方(ただし、それぞれの一部は、後の近畿勢力とも言える)に関係していることである!したがって、そこに登場している、藤大臣(武内宿禰?)、神功皇后、その夫とされる仲哀天皇、その子とされている応神天皇等の事績究明(史実解明)が、つとに待たれるのである!(つづく)

〈編集後記〉今年、実に盛り沢山の8月であったが、その締めが台風(10号)とは:進路が尋常ではない(雨量も)一今はただ、過ぎ去ることを見詰める他ない?願う!被害小! (井上/堂本)